

2. 事業の目的と概要。	
(1) 上位目標	無錫市の農村住民の生活環境の改善
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア)背景:①2007年5月太湖無錫周辺にアオコが大発生し、生活用水・工業用水が使用不可能となりパニック状態という問題が発生した。</p> <p>②北京政府は対応の遅れに苦慮し、無錫市を中国環境改善のモデル市に指定した。</p> <p>③その背景に都市と農村の生活環境・生計所得における格差が存在している。</p> <p>(イ)必要性:</p> <p>①北京政府が無錫市を環境改善のモデル市に指定していることから、日中官民一体型の協力による無錫市の環境改善は、中国全土への環境改善に大きな影響を与える事になり、また日中友好の新しい一里塚となる。「環境に国境は無い」のコンセプトで築いていく民間連携の友好関係は、現下の両国情勢の中でより重要度を増している。</p> <p>②2013年3月に発足した習近平新政権は、その方針の最重要課題として「農村の環境改善と所得向上」及び「大気汚染・水汚染環境対策」を掲げている。既に「食品残渣のゴミを出さない」という具体策は地方のレストランまで急速に実施されてきている。新政権発足間もない事から、具体的な予算処置はこれからとなる。無錫市政府は我々のモデルの完成と成果を見極めて具体的政策と予算処置を講ずると言明している。</p> <p>(ウ)第一期・第二期の成果</p> <p>上記(ア)背景・(イ)必要性により無錫市鉄路橋村に3年計画で新農村モデルの建設事業を実施することとし、第一期と第二期を完了した。(資料1参照)</p> <p>①村用コンポスターを設置し生ゴミ等から有機堆肥の生産に成功した。施肥の結果5種類の有機野菜の栽培に成功した。</p> <p>②農業用ビニールハウスの廃棄ビニールを利用して燃料油を生成する油化装置を設置し、燃料生成による発電に成功した。</p> <p>③アオコ処理装置の中、特許部分であるアオコを破砕する「実証実験型水撃処理機」の実証実験に成功した。</p> <p>④ワークショップ・共同作業等を通じて農民・行政官との意思疎通が良好となり、農民の生活環境改善と生計向上へ積極的かつ自発的活動が生まれてきた(資料2・資料3参照)</p> <p>(エ)第三期への仕上げ計画の必要性</p> <p>上記(ウ)の成果を踏まえて、村全体の農民の生計向上のためには、村モデルだけでは堆肥の生産量が十分でない。無錫市が苦慮している太湖アオコ処理から堆肥を大量に生産する装置を設置することによって有機野菜の生産量を拡大し、村全体の生活環境改善と生計向上を実現していく事が必要である。</p>

<p>(3) 事業内容</p>	<p><u>1. アオコ処理装置の設置(水撃処理機・脱水処理機)</u>  水質汚染が問題となっている太湖のアオコを処理するための装置を設置し、太湖水質浄化とともに有機肥料と有機燃料の原料として循環させる。第二期で無錫市水利局の要請によるアオコ処理現場での「実証実験型水撃処理機」の機能実験が成功裏に終了し、第三期に設置する「実用型水撃処理機」に連結して「脱水処理機」を設置する事によりアオコ処理装置として一貫したアオコ処理を行う。</p> <p><u>2. コンポスター型フレコンパック(バイオ式堆肥処理装置)の設置</u>  アオコ処理装置に連動させて「コンポスター型フレコンパック」を設置する事により、有機堆肥生産方式として、処理された結果としての残渣物(上記1の装置から産出するもの)の一貫処理(アオコ堆肥化処理システム)を行う。これにより大量の有機堆肥を産出する事が出来、大量の有機野菜の栽培を実現させる。</p> <p><u>3. 上記装置を利用することによる汚泥処理</u>  浄化槽が稼働する事によって、汚泥(アオコも含む)が発生する。その汚泥を処理するために、第一期及び第二期で導入した村用コンポスター・油化装置と第三期に設置予定のアオコ堆肥化処理システムを利用することにより、有機肥料と有機燃料の原料として循環させる。</p> <p><u>4. ワークショップ等の開催(日本から専門家を派遣)</u>  <b>対象者: 行政官・技術者・住民</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アオコ処理装置に関する技術研修、啓蒙活動を行う。</li> <li>2. 汚泥処理装置に関する技術研修、啓蒙活動を行う。</li> <li>3. バイオ式生ゴミ処理機(コンポスター・フレコンパック)に関する技術研修、啓蒙活動を行う。</li> <li>4. 既に設置済である浄化槽の維持管理のための技術研修、意識改革教育を行う。</li> <li>5. バイオマスシステム(ゴミの分別回収～再生産有機物(有機野菜等の販売に至るシステム)構築のための知識教育・ワークショップ・実地研修・啓蒙研修及び日本での実地啓蒙研修を実施する。</li> </ol> <p><u>5. 日本招聘研修実施(関係者日本実地研修)</u>  <b>対象者: 住民・行政官・関連他村・協力企業・技術者等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被益農民への日本での実感研修。</li> <li>2. 行政官(現場指導者・監督責任者)の日本実地研修。</li> <li>3. 提携他村(南通市・南京市等)行政官の日本実地研修。</li> <li>4. 関連提携企業の経営者の日本実地研修。</li> <li>5. 技術者(維持管理担当者)の日本実地研修。</li> </ol>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>持続発展性のため3大要素は、<u>①官民の環境への意識変容の定着、②中国政府の環境公共预算計上、③メンテナンス事業会社の成立である。</u></p> <p>① 行政官の意識変容については、無錫市人民政府・の幹部93名の幹部日本研修を無錫市の予算で完了している。住民の意識変容については、今回の日本NGO連携無償資金協力事業が大きな役割を果たす事になる。その具体策として、住民・行政官・関連協力者の日本招聘研修を実施し日本における実地研修によって(百聞は一見に如かず)の効果をも身に付けさせ持続発展に繋げていく。</p> <p>南京市・楊衛澤 委書記との3月22日の会談においてNPOの「日本</p>

	<p>環境研修団訪問」の提案に対して即座に指示が出され「9月29日から2週間:10名の幹部日本研修」が決定された。数日後の3月26日の南京重点新聞のインタビュー記事にも幹部の意識変容について「百聞は一見に如かず」と強調している。</p> <p>②太湖水質浄化モデル都市として無錫市人民政府の公共予算が年々実施されているが、汚染原因の約30%を占める農村地区への予算化が不十分であったが、今後は可能となって来ている。</p> <p>③メンテナンス及び現地化事業として、日本での経験を生かす日本企業（北九州市企業群及び島根県企業群）と中国企業との合作合意書を締結し現地事業化活動を開始している。</p> <p>以上の持続発展性のためには、日中官民一体型の事業協力が不可欠である。当団体として、①～③に対するアプローチを事業終了後も継続して現地協力企業と協同して実施していく計画である。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>本事業実施による裨益者と期待される効果は以下の通り。</p> <p>被益者:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●無錫市直接裨益者約500人</li> <li>●間接裨益者無錫市2村約2万人の農村住民、行政官、技術者</li> <li>●他市村間接裨益者(南京六合区88万人・南通如東県107万人)</li> </ul> <p>期待される効果:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生計向上が期待されるバイオマスシステムが実施される(ゴミ資源のバイオ処理が生産する有機物が収益となる)</li> <li>・太湖アオコ処理から堆肥生産の一貫装置は、大き収益源となる。</li> <li>・事業終了後、無錫市対象のバイオマス＝新農村建設計画が決定される予定であり、更に南京市・南通市・巢湖・微山湖等でも無錫市モデルが採用される予定である。既に南京市六合区(91万人)に鉄路橋村モデルを中心に観光農園建設のコンサル依頼が来ている。又、安徽省合肥市は、無錫市太湖のアオコ実証実験を7月に視察の上確認できれば早急に導入の検討をすると表明している。現在、第一期の50人世帯モデルから更に無錫市恵山区鉄路橋村100世帯約500人の「汚水処理支援等による農民の生活環境改善事業」の第二期村パイロットモデルを形成しているが、点的な実験で終わるのではなく無錫市全農村から更に他都市の農村にも拡大するためには、村ビジネスモデルまで継続的に支援する必要性がある。</li> </ul> <p>(成果を測る指標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1各種装置の設置及びワークショップの実施の成果として、鉄路橋村にて年間約90トンの有機肥料と30種類以上の有機野菜が生産されること。</li> <li>2日本研修者約20名が自村及び他村への指導を実施していること。</li> <li>3無錫市モデルが3市以上に採用されること。</li> <li>4太湖アオコ処理システムが北京政府の指定しているアオコ汚染6湖のうち3湖に採用されること。</li> </ol>